

ヒアリングを実施した課へのコメント

※審議会からジェンダー的視点を加味した意見が出た課に対して記載しています

【職員課】

- ・コロナ、ワーク・ライフ・バランスなどさまざまな観点から在宅勤務、テレワークを真剣に考える時期だと考えます。最初から無理だと決めつけず、このチャンスに徹底的・根本的な仕事の合理化により、労働時間の短縮等の取り組みを期待する。

そのための取り組みについて、達成するためにはどうすべきか具体的な目標設定をしてほしい。

【危機管理課】

- ・市で防災士養成講座を開催したことは評価する。しかし防災士の資格取得後の活動が自主性に任されていることに改善点があると考え。資格取得後のフォローを市がどう行うのか、もう少し意識した取り組みを希望する。それが最終的に男女共同参画の視点からの防災につながる取り組みになるよう期待する。

【福祉課】

- ・障がいのある人は、女性であることで、更に複合的な困難を抱える場合が少なくないと考え。窓口に来庁された人にサービスを提供するという職員の意識を見直し、窓口に来られない人のニーズも汲み取る手法について検討をしてほしい。

※例えば療育手帳Bの人はある程度自力で生活し、仕事もしているケースがある。しかし、トラブルに巻き込まれやすいとも聞く。こういった人へ目を向けてほしい。また、成年後見制度について、本人は何も分からない状態であっても、市は普通に手紙を送っている。家族が対応することが前提の制度設計についても課題があると考え。

- ・更に、様々な申し込みを行う際、市役所外の施設に行かなければならないケースもある。能力的に行くことが難しい場合もあり、関係者（市役所外の施設職員）に市役所内に来てもらうなど関係調整の検討も希望する。

【子育て支援課】

- ・育休中は子育て力を身につけ、家族でどのように子育てをシェアしていくか、仕事に戻った時にどういう暮らしをしていくかなど、働きながら育児をするための唯一の準備期間である。この時期の負担軽減のため、その支援をしているのが子育て支援拠点施設だと考える。施設によって、サービスの質にムラがでないよう、

施設間等の連携が重要だ。この目的達成の為、具体的な数値目標がほしい。ただし、数値を追いかけることで目的が達成できるように有効な取り組み目標の設定を希望する。また、幼保運営課との連携も重要であり、旧センター型、旧ひろば型の一体化に向け情報共有への意識強化を望む。

※以前は3年間子どもを家で見る人が多かったが、最近はだいたい1年で復帰している。それを見越した対策が必要で、時代の流れにキャッチアップした取り組みをお願いしたい。

【産業観光課】

・産業振興支援補助事業など、住民や企業は、なかなか気が付かない、見えない部分もあると考えるので、好事例の紹介も含めWEB上で見せる工夫をしてほしい。

※メニューはたくさんあるが、1つしか採択できない条件設定。職場環境改善を選ぶ優先順位が低いいため、毎年数社しか選択されないのも残念である。併給可能にするとか、検討を希望する。

【消防総務課、予防課】

・婦人防火クラブの現状を見守るしかないという姿勢に対し、コミュニティの中に入って、共に考える姿勢がほしいと考える。

【学校教育課】

・前回評価では「学校現場任せで、課の主体性がない」と指摘したが、以前より男女共同参画の視点を取り入れる重要性を学校現場に指摘するなど、具体的な取り組みがされていると評価する。今後、取り組みの効果が子どもの側にも表れる様、更なる工夫を期待する。

・LGBTや男女共同参画に対する取り組みは評価するが、資料提供に留まることがないよう、効果の検証のため、子どもへのアンケートの実施などを検討するよう望む。目標に対する実践を検証・評価し、現場に課題を提言するPDCAサイクルの構築を希望する。

【幼保運営課】

・セクハラ・パワハラ相談先が現場だけでは、相談し辛い職員がいると考える。これらの問題は潜在化しやすいため、十分な配慮を望む。

・保育現場では、LGBTや職業観などの課題についても（先入観を持たずに）絵本などのわかりやすい教材をつかって、子どもたちに伝えてほしい。

・高松の保育士による性的虐待事件もあり、保育士研修において性的虐待に対する対応についての取り組みを希望する。